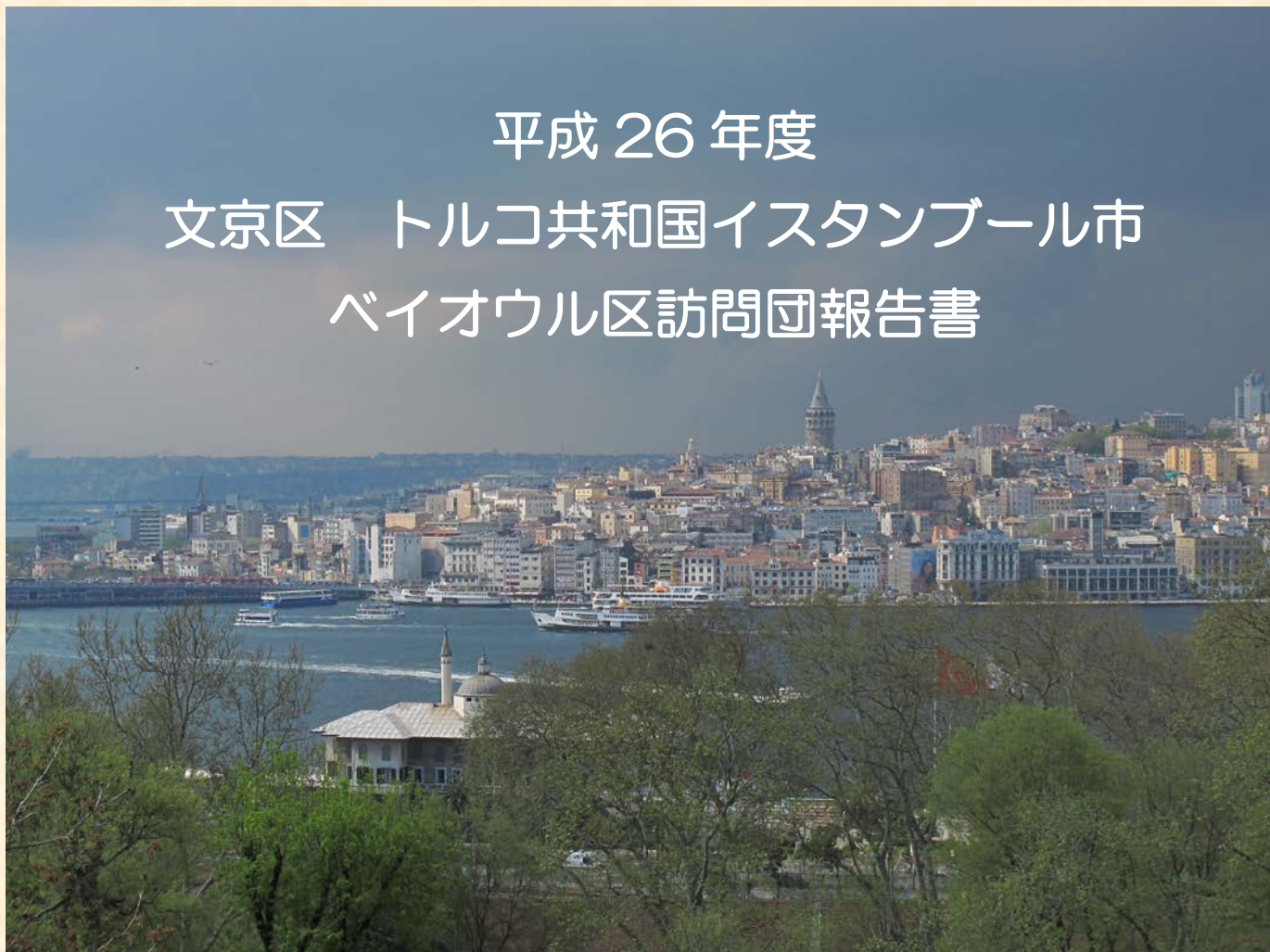


平成 26 年度
文京区 トルコ共和国イスタンブール市
バイオウル区訪問団報告書



文京区



はじめに

訪問団 団長
文京区長 成澤 廣修

文京区とトルコ共和国イスタンブール市ベイオウル区への訪問は、駐日トルコ大使館の仲介により、昨年 9 月に先方の副区長と国際部門長が訪問したことをきっかけに、デミルジャン区長からお招きを受けたもので、文京区から初めての訪問団として伺いました。

ベイオウル区は、オスマントルコ帝国の時代には外国人居住区として栄えたエリアであり、現在はイスタンブール市の新市街の中心に当たります。ガラタ塔、イスティクラール通り、ガラタサライ高校があるなど、歴史や文化、教育のまちとして特に有名です。

現地では、ベイオウル区長を表敬訪問するほか、図書館、生涯学習センター等の視察を行い、地域子ども達とも交流を深めることができました。

今年は日本とトルコの国交樹立 90 周年に当たります。この記念すべき年の訪問を通じて、文京区とベイオウル区の交流推進について意見交換ができたことは、大きな収穫でした。

また、今回は交流のきっかけともなった、駐日トルコ大使館の方にも訪問に同行していただきサポートをしていただいたことに加え、以前よりトルコのアンカラ大学と交流のある学校法人文京学園からの訪問団 2 名も日程を合わせて渡土し、学校単位の交流にも進展があった模様です。

今後もこの訪問をきっかけにさまざまな分野での交流が多様なレベルで広がっていくことを期待しています。

最後に、訪問に当たりましてご協力をいただきました多くの方々に、心から感謝申し上げます。



目次

はじめに

訪問スケジュール 1

訪問記録

首長会談 2

視察

1 青少年センター 3

2 ガラタ塔 3

3 ソーシャルマーケット 4

4 トラビババ図書館 4

5 教育・生涯学習センター 5

6 ガラタ・メヴラーナ博物館 5

7 ポスポラス海峡 6

8 ドルマバフチェ宮殿 トルコ書道展示会見学 6

9 ネブシェヒル(カッパドキア) 7

10 イスタンブール旧市街 8

その他

学校法人文京学園からの報告 9

訪問団団員

団 長 成澤廣修 文京区長

事務局 矢島孝幸 アカデミー推進部観光・国際担当課長

事務局 増田一昌 アカデミー推進部アカデミー推進課国際交流担当主査

訪問スケジュール

4月8日(火)

午前 成田空港からトルコ航空機でイスタンブール・アタテュルク空港へ

午後 イスタンブール・アタテュルク空港着。ベイオウル区職員の出迎えで移動

4月9日(水)

午前 青少年センター

ガラタ塔

午後 ソーシャルマーケット

トケル副区長とミーティング

デミルジャン区長と首長会談

夜 歓迎夕食会

4月10日(木)

午前 トラビババ図書館

教育・生涯学習センター

午後 ガラタ・メヴラーナ博物館

ドルマバフチェ宮殿 トルコ書道展示会見学

4月11日(金)

終日 ネブシェヒル(カッパドキア)視察

4月12日(土)

午前 イスタンブール市旧市街

午後 イスタンブール市旧市街

夜 在イスタンブール日本国総領事公邸

イスタンブール・アタテュルク空港へ

4月13日(日)

午前 イスタンブール・アタテュルク空港からトルコ航空機で成田空港へ

午後 成田空港着

首長会談

1 日時・場所

4月9日(水) 午後6時～午後7時
イスタンブール市ベイオウル区役所内 区長室

2 出席者

ベイオウル区：アスメット・ミスバフ・デミルジャン区長
文京区：成澤廣修区長、矢島孝幸観光・国際担当課長、増田一昌国際交流担当
トルコ大使館：テラット・アイディン文化部代表、伊藤真恵専門官
文京学園：島田昌和副理事長、南部和彦女子中学校代表
在イスタンブール日本国総領事館：笹谷能史首席領事

3 会談内容

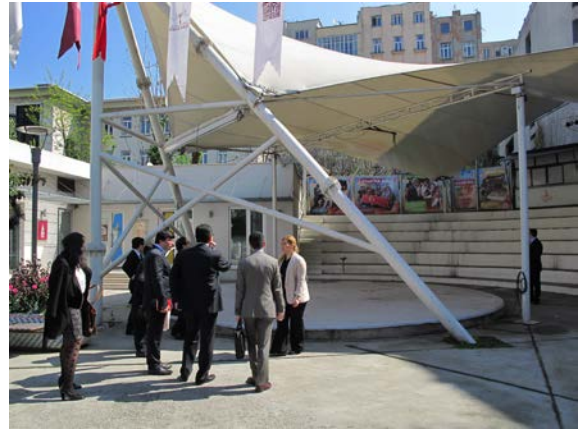
- ・日本・トルコ国交樹立 90 周年でもある本年の秋にベイオウル区長の文京区訪問について基本的な合意を得た。
- ・子どもたちの絵画交流の可能性について提案した。
- ・JICA 技術支援事業を活用した防災協力の可能性について話し合い、ベイオウル区が求めるものがあれば、文京区として防災協力を進める準備ができることが話しあわれた。



視察

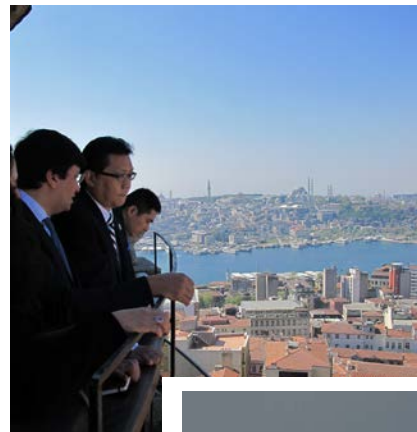
1 青少年センター

Şahkulu Mahallesi 地区にある新しい青少年施設で、ベイオウル区在住の 15 歳から 30 歳までの若者の文化的、社会的、個人的な成長促進のために設置した施設で、個々の若者が平等な機会に恵まれるようにとの視点から、数々のイベントの外、キャリアアップのための講座を開催している。170 席のコンサートホールの外、200 席の野外円形劇場、多機能読書ホール、展示ホールなど、さまざまな設備を完備している。EU ユースプログラムや学校、大学、NGO などとも協力して、国際交流プログラムも実施している。毎年約 10,000 人の若者が、大学準備コース、ウェブデザイン・グラフィックデザイナーコース、音楽楽器コース、英語コース、経理コース、ベイオウル文化・美術館スタンプラリーなど各種のコースに参加している。



2 ガラタ塔

イスタンブールの新市街の中心であるベイオウル区のランドマークになっている塔であり、67mの高さがある。塔の上部は 360° 見渡せる展望台になっており、そこからはベイオウル区をはじめ、金角湾を挟んだ向こう岸の旧市街には、トプカプ宮殿、スルタンアフメットジャーミー、アヤソフィアが、その左にはボスポラス海峡を行き交う多くの船など、イスタンブールらしさが一望できる場所である。各国から多くの観光客でにぎわっており、訪問したベイオウル区の中でも、特筆すべき必見の場所の一つに挙げられる。



3 ソーシャルマーケット

ソーシャルマーケットはKasimpaşa地区にある2010年に駐車場を改装して作られた、経済的に支援が必要な方に対して日用品を低価格で提供するFoodbankの活動をしている社会福祉施設である。トルコ赤十字のイスティクラール支店、バイオウルの社会助成や基金との協働によって発足した。食糧品、服、洗濯用品や暖房器具などの寄付を区民や区内外の企業から募り、バイオウル区の車両で集められ搬入される。寄付をした事業者には寄付証明書が発行され、相当額が企業税等から控除される仕組みがある。ソーシャルマーケットでは現金は使われず、クレジット会社のマスターカードと提携した電子ショッピングカードを使って、利用者の限度額や購入品目を管理している。



4 トラビババ図書館



この図書館はKasimpaşa地区にあり、2008年に古い建物をリニューアルして作られた。区民の情報センターであると同時に、地域の歴史的資料を集めるセンターとして作られたものであった。現在12,000名の利用登録があり、23,500の資料と視覚障害者向けに1,300の音声図書がある。2014年では、350,000名の図書館利用者があった。

インターネット環境を完備するなど近年の図書館の流れを汲んだ充実した設備であった。一方、子どもの教育にも力を入れており、児童館のような役割も持った施設という印象があり、当日もかわいらしい子どもたちが図書館の行事に参加していた。



5 教育・生涯学習センター

ベイオウル区は、地域コミュニティの教育需要のため、区を12の地区に分け、それぞれに教育・生涯学習センターを設置している。訪問した施設はそのうちのひとつで、Ayanalıkavak 地区にある。ここは、地域住民のサポートセンターとして低所得者への診療センターから保育園、青少年への各種学習コース、職業訓練コース、成人への生涯学習コースまでを整えた施設であり、多くの利用者に親しまれていた。1年でおおよそ6,500人~7,000人がサービスを受けており、今日までに30,000人を超える人々がこれらのセンターでトレーニングを受けている。また、12のセンターの内、10には就学前の教育センターが設置されており、これまでに2,000人ほどが登録を行っている。

我々が訪問した際も、主婦向けの講座や未就学児への保育部門などが多くの利用者でにぎわっていた。



6 ガラタ・メヴラーナ博物館



ここは、ガラタ塔からほど近い Galip Dede 通りにある13世紀イスラム教の一教団として作られたメヴレヴィー教団の修行場の一つである。メヴレヴィー教団は15世紀にはオスマン帝国の庇護を受け、トルコ国内で修行場が作られるなど、大いに栄えたが、トルコ革命により衰退、現在は歴史的価値などから復興し、博物館として公開されている。

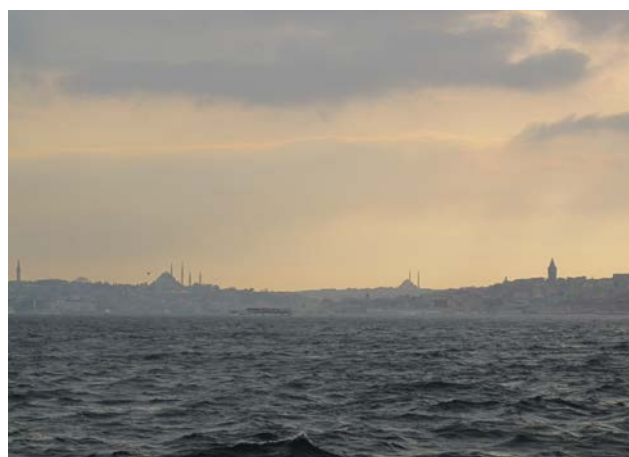
内部は、セマー(旋舞)に使う笛、太鼓の外、衣装が展示されており、トルコの歴史と文化の一面を垣間見ることができる。

7 ボスポラス海峡

ボスポラス海峡船上視察は、デミルジヤンバイオウル区長の勧めでプログラムに組み込んだ。バイオウル区からガラタ橋で金角湾を渡ったエミュノニユ栈橋から、ボスポラス海峡に架かるファティフ・スルタン・メフメット大橋までを船で巡った。

これまでに視察を行った場所を、海上から再確認しつつめぐることでもでき、イスタンブールのまちをさらに理解するのに大いに役に立つ内容であった。

また船を使ったボスポラス海峡の横断は、イスタンブールの人々にとって、交通手段の一つとして定着しており、人々の生活の一部となっていることも知ることができた。そのため、船が発着する栈橋は、多くの人でにぎわい、サバなどの魚を売る店の外、たくさんの屋台も出ていて、トルコの日常を垣間見ることができた。



8 ドルマバフチェ宮殿 トルコ書道の展示会見学

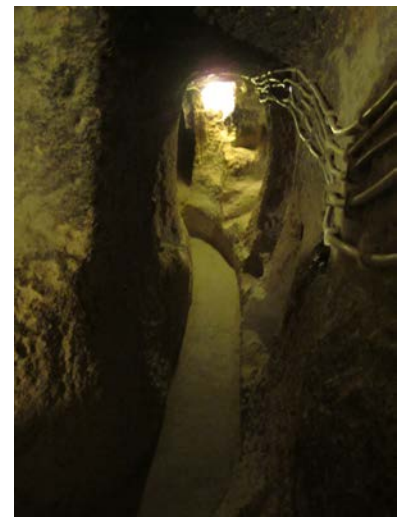
ドルマバフチェ宮殿は、バイオウル区のボスポラス海峡沿いにある、19世紀に完成した宮殿である。今回はその宮殿施設内にある美術館で、ユヌス・エムレ・インスティテュートが主催するトルコ書道の展示会のオープニングセレモニーに立ち会った。多くの列席者でにぎわう会場で、精巧な作品を見学し、トルコの文化をさらに知る機会となった。



9 ネブシェヒル(カッパドキア)

トルコの歴史文化の理解の一環として世界複合遺産のカッパドキアのあるネブシェヒル視察を行った。

ここは中央アナトリア高原に位置し、キノコ状の奇岩や地下数十メートルに残されたキリスト教壁画のある地下都市など、長い自然と人々の歴史が交差する見どころの多い場所である。



カイマクルの地下都市は迷路のような作りで、キリスト教徒が大規模な共同生活を行っていたことがわかったほか、これ以降も自然に浸食された奇岩や広大なパノラマが圧倒的なスケールで展開される、世界屈指のユネスコ世界遺産といえる場所であった。一日でイスタンブールから往復で視察をするには、厳しい面もあったが、天候にも恵まれ、要所を上手く回れたことは幸運であった。いずれにしろトルコを理解するうえで、欠かすことのできないポイントとしてあげられる場所だと感じた。



10 イスタンブール旧市街

まず、グランドバザールを視察した。ヌルオスマニエ門から入り、主要な通りのいくつかを見学した。バザールは広く、無数の店が並んでおり、迷子になりながらの散策をむしろ楽しむような魅力のあるところであった。



次にスルタンアフメットジャーミーを視察した。ブルーモスクの名で親しまれるこのモスクは、荘厳で見事な装飾が目を見張るほか、周囲の公園にも花が咲き乱れており、多くの人々が集まる場にふさわしいところであった。

その後に見学したアヤソフィアは、ギリシア正教の教会として建設されたものの、モスクへ改装されるなどイスタンブールの歴史と文化を象徴する建物である。実際にその建物を目にし、変遷の重みを実感できる場所であった。



最後にトプカプ宮殿を視察した。オスマン朝の宮殿として400年の間、政治の中心として栄え、多くの財宝とともに、長い歴史を感じさせる宮殿であった。

このように、イスタンブールの旧市街を見て回ったが、どの施設も距離的に近いいため、集中して回ることができた。またトルコ及びイスタンブールの歴史と文化に直接触れ、理解を深めることができる良いエリアだと感じた。



その他 学校法人 文京学園からの報告

ガラタサライ高等学校訪問

4月10日(木)にトルコ大使館：テラット・アイディン文化部代表とベイオウル区国際部門長：Ebru kus Sen 氏の案内にて島田昌和副理事長、南部和彦中学代表がガラタサライ高校を訪問させて頂いた。ガラタサライ高校は533年の歴史を有するトルコでは由緒ある名門の高校であり、学校案内にも「Half a Millenium of History」と書かれてあった。ガラタサライ大学と共に、国の中枢を担う多くの人材を輩出している。

正門でのセキュリティチェックを経て校内に入ると緑豊かな敷地と色鮮やかなチューリップの花壇にまず目を奪われた。校舎はスルタン王朝の建物の一部であるとの説明を聞き、驚きを新たにした。受付を経て校長室に通されたが、トルコ様式の荘厳な内部の装飾には言葉を失う程であった。



しばらくして Meral Mercan 校長先生がお見えになり、表敬のご挨拶をさせて頂いた。威厳のある堂々とした女性校長であり、500年以上の歴史を有する学校にふさわしい校長である事を改めて感じた。

Meral Mercan 校長先生より学校の歴史及び概要について丁寧な説明を頂いた。中でも教育課程についてはイスタンブールという特性や長い歴史と伝統を生かした教育内容を特色としている事を強調されていた。また、現在学校が取り組んでいるグローバル教育についても説明を頂き、国際都市にふさわしい学校である事が一層明確になった。文京の中学・高等学校の概要についてもお話をさせて頂き、学校間交流についてお願いをした所、ベイオウル区：アスメット・ミスバフ・デミルジャン区長より既に文京区との連携の話が入っており、本校との交流についても快諾をして頂いた。インターネットでのメールやスカイプをベースとしながら、将来は生徒同士の交流も実現していくという方向を確認させて頂いた。

既にガラタサライ高校ではいくつかの学校とも交流をされており、実施校との交流協定書も見せてくださった。やはり東西文化の融合するイスタンブールでは国際交流は当たり前のように行われており、改めてこの都市のもつ多様性に驚いた。



懇談後、副校長先生の案内にて校舎内を見学させて頂いた。各教室、図書室、講堂、理科室などを見せて頂いたが、いずれも 500 年以上の歴史の重みを感じた。生徒だけでなく先生方もとてもフレンドリーで、どこでも気軽に挨拶をしてくださった。一番興味を覚えたのは歴史遺産と言っても良い程の校舎ではあるが、その良さを残しながらも現代的な洋式を取り入れた改築がなされていた事である。特に目を引いたのは手書き用の普通の黒板の半分に電子黒板が埋め込まれており、引き戸の様に扱うことで電子黒板を容易に使用できる事であった。授業の形態に合わせて、最先端の教育機器を用いるというコンセプトに驚きを隠し得なかった。500年以上の歴史に対する誇りを持ちながらも、現代の最先端の技術も取り入れ教育を展開していることに改めてこの学校の素晴らしさを感じた。本校がこれから交流できる事に喜びを感じながらも責任の重さを同時に痛感した。



平成 26 年度 文京区 トルコ共和国イスタンブール市
バイオウル区訪問団報告書

平成 26 年 6 月

文京区

アカデミー推進部アカデミー推進課

〒112-8555 文京区春日 1-16-21

電話 03(5803)1310